



どうする 麻布

港区基本計画・麻布地区版計画書改定に向けた提言書
令和5(2023)年3月
区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会





唯是一寿 Kazutoshi YUIZE

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会 座長

前回提言後の3年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナ戦争の勃発等により、市民生活と経済活動が大きな打撃を受けた、激動の期間でした。私たちは、人類史の中で非常事態ともいえる危機の時代に突入し、離合集散、栄枯盛衰を一挙に経験する、波乱万丈の時節を生きています。

このような状況下にあっても、麻布地区政策分科会は麻布地区総合支所と連携し、感染拡大防止と地域事業継続の両立に向けて全力で取り組んできました。また、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据え、麻布の未来を形づくるプロジェクトを着実に進め、「AZABU」を止めることなく、地域の安全・安心の維持に努め、住民の絆をつないできました。

特筆すべきは、地域事業を始めとする公共活動への参加者が増加していることです。混乱や混迷の中でも、麻布地区の住民は冷静に事態に対処し、共助・公助を意識し、市民生活を送っているのです。他人事ではなく、「自分が主役」という意識や行動こそが麻布の特性であり、麻布の魅力なのだと改めて実感しています。

今年度も、麻布に生き、麻布を愛し、麻布の現在と未来を真剣に考える方々が一堂に会し、地区政策と地域事業を再検討する作業に取り組みました。内憂外患の折、未曾有の困難を克服し、麻布の歴史と文化に誇りをもってまちづくりを継続していくため、委員一人ひとりが真剣に議論した結果を、ここに上梓できるのは大きな喜びです。

分科会の運営および本提言書の作成にあたり、貢献してくださった堂園副座長を始め、リーダー、サブリーダーの皆様にご心より御礼申し上げます。また、厳しい社会情勢にあっても、いつも笑顔で分科会や地域事業に参加してくださった委員各位にも感謝申し上げます。

持続可能な社会の実現を目指し、引き続き麻布地区が、港区の、東京の、日本の、そして世界の牽引役となりたいと思います。

座長・副座長あいさつ



堂園 栞美 Masami DOZONO

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会 副座長

「麻布を語る会 麻布地区政策分科会」の一員として、初めてこの取組みにご一緒させていただいた日から早いもので4年目に突入致しました。そのうちの約3年間は、私たち誰もが想像もつかなかったであろう、コロナ禍という過酷ともいえる状況のもと、世界中の人々がはじめて経験することばかりに翻弄される日々であったと思います。

そんな中、私たちが政策分科会の取組みで感じることは、人々の繋がり、優しさ、麻布への想い、今だからこそ自身の手で何かを続けていく、やり遂げる、支えあう、という本当に前向きな気持ち、そしてその原動力になった麻布地区への誇り、麻布愛、自らが未来を創造するという分科会メンバーの強い意思と責任感でした。

生活のルーティーンや働き方はこの3年間で大きく変わり、一人ひとりにとっての大切なものや優先すべきもの全てが新しいレンズで見られるようになったことで、これまでの常識や考え方にも大きな変化があったことを実感しています。大切なものを守っていきたいから、私たちは留まることなくどんどん変化していくんだ、未来は自分たちでデザインしていくんだ、という麻布人としての真の強みや、政策分科会としての大切な取組みの醍醐味を目の当たりにしました。

僭越ながらも副座長として皆さんを支えていかなければならない立場で、今振り返ってみると、私自身が、唯是座長をはじめとする分科会のみなさま、支所や事務局のみなさまに沢山の支えを頂き、乗り切ることが出来た3年間の取組みであったと思います。本当に感謝しています。麻布と分科会の皆さんが大好きです。

これからも、麻布愛を原動力として、素敵な未来のデザインに微力ながらも貢献して参る所存です。最後に、私たちにこのような貴重な機会とパワーを与えてくださっている麻布のまちに心から感謝と敬意を表します。

目 次

座長・副座長あいさつ

1 提言書について	1
見直しに当たっての考え方	1
見直しまでの流れ	1
地域事業の位置付け	1
【地域事業の紹介】分野Ⅰ かがやくまち(街づくり・環境)	2
【地域事業の紹介】分野Ⅱ にぎわうまち(コミュニティ・産業)	3
【地域事業の紹介】分野Ⅲ はぐくむまち(福祉・保健・教育)	4
2 麻布地区政策分科会からの提言	5
麻布地区政策分科会 Aグループ	6
提言1 六本木安全安心プロジェクト～ルール違反ゼロの六本木へ～	8
提言2 地域事業活性化プロジェクト	10
提言3 地域間子ども交流～あらたなはっけん あらたなきずな～	12
麻布地区政策分科会 Bグループ	14
提言4 親子でエコっとプロジェクト	16
提言5 麻布未来写真館～次世代へつなぐ麻布の記憶～	18
提言6 地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」	20
麻布地区政策分科会 Cグループ	22
提言7 みんなでまちをよくする「ミナヨク」	24
提言8 あざぶ達人ラボ～次世代へつなぐ麻布の魅力～	26
正副座長による総括	28
委員によるコメント	30
3 麻布地区政策分科会について	41
目的	41
令和4年度の活動概要	42
委員名簿	43
各グループが討議した地域事業	44
令和3年度の活動概要	44

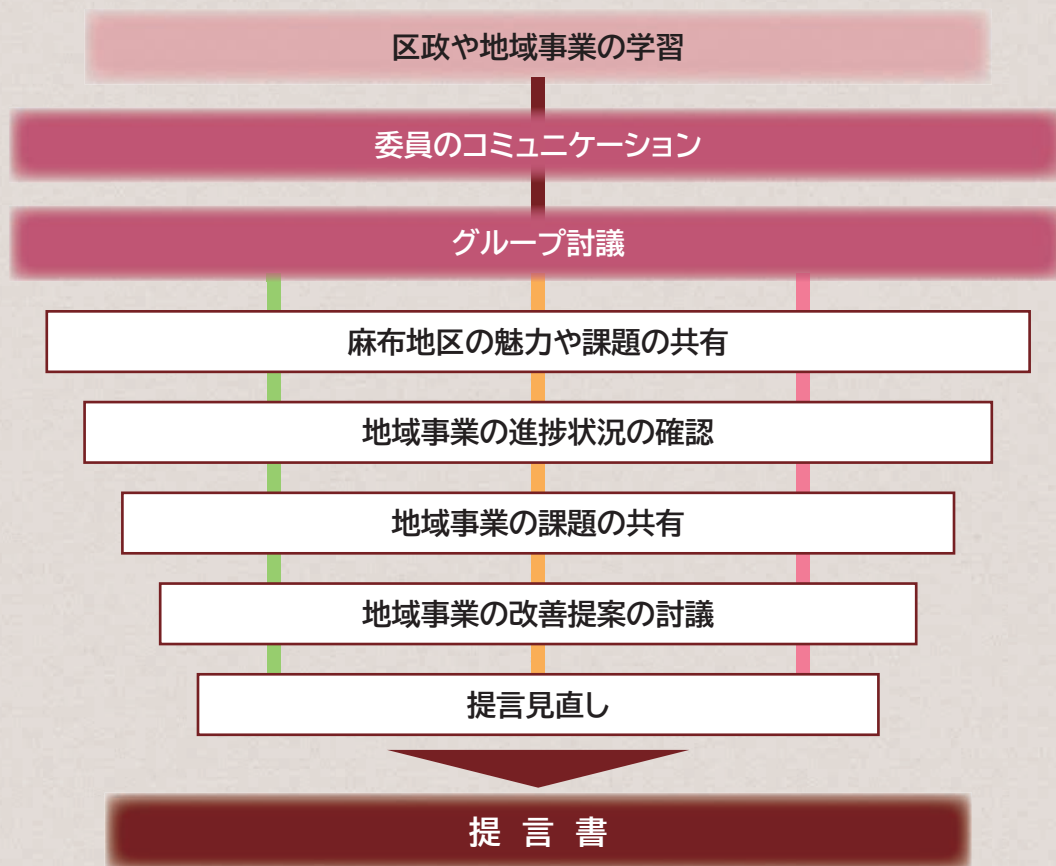
1 提言書について

見直しに当たっての考え方

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会は、麻布地区に住み、働き、学ぶ方々が主体となって、麻布地区の将来を、港区麻布地区総合支所とともに考える分科会です。

令和4年度は、麻布地区総合支所が実施している8つの地域事業について、相互に意見を交換し、討議を重ね、提言としてまとめました。また、座長及び副座長が、分科会での意見を踏まえ、地域事業等のよりよい活性化につながる区民参画のあり方などに関する提案をまとめました。

見直しまでの流れ



地域事業の位置付け

麻布地区の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛り込み、麻布地区の魅力を高めるため、3か年の年次計画を立て、重点的に取り組む事業です。

【地域事業の紹介】 分野Ⅰ かがやくまち（街づくり・環境）

六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～



事業の目的

区民・事業者・行政機関が協力し制定した「六本木のまちで全ての人を守るべき防犯と環境美化のルール」である「六本木安全安心憲章」を、六本木のまちに関わる全ての人に周知・浸透させること

事業の概要

年に10回程度、六本木交差点で街頭キャンペーンを実施し、街頭ビジョンやウェブサイト等の媒体で憲章のPRや憲章に賛同する事業所の登録制度を実施

親子でエコっとプロジェクト



事業の目的

子どもたちに、知る・見る・体験することを通じて、自然環境や生きものを大切に作る心を育んでもらうこと

事業の概要

自然環境やリサイクルに関する取組を行う地域のボランティア団体や事業所等と連携し、生きもの観察や自然散策、環境美化、リサイクル等をテーマに、参加する子どもたちが自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施

【地域事業の紹介】分野Ⅱ にぎわうまち（コミュニティ・産業）

みんなでまちをよくする「ミナヨク」



事業の目的

地域に愛着を持って地域活動を行う「地域サポーター」として活躍できる「人財」を発掘・育成し、新しい地域のつながりを構築していくこと

事業の概要

地域活動に興味がある麻布地区在住・在勤・在学者等が集まり、地域活性化のためのアイデア創出に向けたワークショップの実施や、修了者が交流し、継続的にコミュニティに関われる仕組みづくり

地域事業活性化プロジェクト



事業の目的

麻布地区総合支所地域事業の歴代参加者に活躍の場を提供し、新たな地域の交流を創出することや麻布地区の情報を発信強化すること

事業の概要

地域事業の歴代参加者が「麻布の縁さ〜」となって、同事業専用のウェブサイトの運営を一部担い、麻布地区に関する多様な情報を継続的に紹介し、「麻布の縁さ〜」の知見を活用した様々なイベントを実施

麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～



事業の目的

麻布地区の歴史やまちの移り変わりを写真により保存・発信し、広く伝えていくことで、地域への共感や愛着を深めてもらうこと

事業の概要

参加者が収集した麻布地区の今昔の写真やまち歩きで撮影した写真をパネルにし、他の地域事業・企業・大学等と連携したパネル展の開催や SNS 等を活用した写真の公開

【地域事業の紹介】分野Ⅲ はぐくむまち（福祉・保健・教育）

地域間子ども交流 ～あらたなはっけん あらたなきずな～



事業の目的

他の自治体と交流し互いの魅力や歴史を知る機会を創出するとともに、豊かな自然を体験する機会を設け麻布地区の子どもたちの健全な育成を促すこと

事業の概要

麻布地区の子どもたちが交流自治体の自然・農業・伝統文化等を体験し現地で子どもたちと交流するツアー、交流自治体の子どもたちが麻布地区で特産品販売を行う事業等を実施

地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」



事業の目的

高齢者が住み慣れた地域で孤立せず安心して自分らしく生活できるようにすること、また地域におけるボランティアを養成し地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援すること

事業の概要

麻布地区の高齢者が楽しめるような活動・プログラムの提供や他の地域事業の参加者との交流など、気軽に立ち寄れる地域サロンの運営

あざふ達人ラボ ～次世代へつなぐ麻布の魅力～



事業の目的

麻布地区の区民等が、地区の歴史や文化等の魅力を知り、それを次世代へ語り伝えていくことで、地域への関心や愛着を深めてもらうこと

事業の概要

麻布地区の歴史や文化等の魅力を伝える講演会・公開セミナー・まち歩き・子どもを対象としたイベントを他の地域事業や関係機関等と連携して開催

麻布地区政策分科会 Aグループ



◎リーダー・サブリーダーによる総括◎

六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～
吉野 茂

Aグループ リーダー

本事業は、六本木を全ての人が安心して過ごすことのできるまちにするための取組です。多くの区民に周知・啓発を行い、活動の活性化・目的を達成できるよう提案にまとめています。生活安全に関する取組は、区民アンケート等からも関心の高い分野であるので、区民を中心に事業者、行政等、様々な活動主体と協働し、活動を継続することが重要です。

地域事業活性化プロジェクト

三国 廣子

Aグループ サブリーダー

独自性が高く他の自治体では見られない取組なので、外部委託業者の選定、運営方法を慎重に検討し取り組むべきと考えます。それにより地域事業の歴代参加者の満足度向上、町会・自治会との連携に加えて現在ある他のコンテンツ（ザ・AZABU、麻布未来写真館等）も生かすことができ、相乗効果が生まれると考えられ、軌道に乗れば地域の活性につながると思われます。

地域間子ども交流 ～あらたなはっけん あらたなきずな～
片岡 佳和

Aグループ サブリーダー

舟形町や小鹿野町に行き、自然・歴史・文化等を肌で感じ、また、現地の方々と心温まる交流を行うことは、参加する子どもたちにとって貴重な経験になっています。一方、現状では参加人数が限られているので、より多くの子どもたちが経験できるような工夫（参加費用や宿泊日数の見直しなど）を提案します。

提言 1 六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

事業の目的

区民・事業者・行政機関が協力し制定した「六本木のまちで全ての人を守るべき防犯と環境美化のルール」である「六本木安全安心憲章」を、六本木のまちに関わる全ての人に周知・浸透させること

事業の概要

年に 10 回程度、六本木交差点で街頭キャンペーンを実施し、街頭ビジョンやウェブサイト等の媒体で憲章のPRや憲章に賛同する事業所の登録制度を実施

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

まちのルールを周知・浸透させていくための取組であり、目的にあっている

事業の効果はありますか？

街頭キャンペーンで啓発品配布を行うことで憲章の周知の効果はある

事業に独自性は見られますか？

他地域でも、同様の取組があり独自性はないが、まちの生活安全に必要な事業

継続に向けた課題はありますか？

ロゴデザインから事業内容や取組が伝わりにくい

賛同事業所が 400 を超えるにもかかわらず、広く周知されていない

取り組むべき課題が多岐にわたり、効果的な啓発活動が難しい

定期的な啓発活動を行っているが、地域住民や来街者に浸透しているとは言い難い

コロナ禍以後、新たな課題が出てきている

継続
改善

提 案

六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

なぜ改善？

事業内容や取組の認知度を高め、関心を持ってもらうことが必要です。

ロゴデザインからは事業内容や取組が読み取りにくいです。

社会の新たな課題に対応した取り組み方が求められます。

どうする？

SNS 等を活用した啓発活動の展開

柔軟に情報発信できる方々に SNS 等を活用してもらい、啓発活動の展開を図ります。

取組みテーマの絞り込み

取組みテーマを絞った啓発活動を行います。

活動時間の拡大

平日や日中が中心の活動から、休日や夜間にも活動を行うことで、より多くの人に対して取組の周知を図ります。

ロゴデザインの再考

インパクトのあるキーワードやイラストを用いたロゴデザインの再考を提案します。

憲章の改定

新たな課題に対応できる「六本木安全安心憲章」への改定を提案します。

期待できる効果

取組の周知方法を工夫することで、新たな関心層の発掘が期待できます。

また、本取組を知らなかった層へアプローチする機会が増え、活動参加者の増加も期待できます。六本木・麻布地区全体での生活安全に対する機運醸成をめざします。

活動頻度を増やすことで、多くの事業所や区民の参加機会の創出が期待できます。

分かりやすいロゴデザインにすることで、初めて見た人も取組の内容を理解することができ、多くの人のマナー向上が期待できます。

憲章改定を行うことにより、新たな課題にも取り組む姿勢を示します。

提言 2 地域事業活性化プロジェクト

事業の目的

麻布地区総合支所地域事業の歴代参加者に活躍の場を提供し、新たな地域の交流を創出することや麻布地区の情報を発信強化すること

事業の概要

地域事業の歴代参加者が「麻布る縁さ～」となって、同事業専用のウェブサイトの運営を一部担い、麻布地区に関する多様な情報を継続的に紹介し、「麻布る縁さ～」の知見を活用した様々なイベントを実施

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

「歴代参加者の活躍の場」としてふさわしいかどうかは判断し難い

事業の効果はありますか？

効果はあると評価できる
他の自治体での事例がないため、取組が軌道に乗れば波及効果は見込める

事業に独自性は見られますか？

他の自治体での事例はないため、独自性は高い

実現に向けた課題はありますか？

「麻布る縁さ～」がインターネットの活用にな慣れの場合、目的である「歴代参加者の活躍の場」がインターネットであることがふさわしいかどうか

事業の実施体制を検討する必要がある

「麻布る縁さ～」という名称の認識や浸透の観点から周知方法について再検討の余地がある

コンテンツがまだ十分でない

町会・自治会や自主グループとの連携の可能性が不透明である

継続
改善

提 案

地域事業活性化プロジェクト

なぜ必要？

地域事業の歴代参加者に活躍の場を提供し、新たな層との交流を増やすことで、麻布地区に興味を持ってもらい、地域事業参加者の増加を狙うために必要です。

どうする？

「麻布る縁さ～」が町会・自治会と連携することで、地域の交流がより活性化されることが考えられます。

「麻布る縁さ～」の知識のデジタル化

地域事業の歴代参加者である「麻布る縁さ～」の知識を、インターネットを通じて生かしていくことを提案します。

ネーミングの定着

「麻布る縁さ～」というネーミングの定着をめざします。

既存事業の活用

地域情報紙「ザ・AZABU」や「麻布未来写真館」などの麻布地区での従来からの事業を活用すべきと考えます。

「麻布る縁さ～」と町会・自治会との連携支援

町会・自治会や自主グループと相互に情報提供していくことを提案します。

期待できる効果

取組の対象者は「役に立てる」ことを喜びと感じているので、よりそれが実感できるような事業内容にすることで、本事業の目的が達成されます。

「麻布る縁さ～」が、研修等によりインターネット等に興味を持つことや、SNSなどを得意とする年代もウェブサイト運営に参加することで、充実したコンテンツの創造が期待できます。

地域情報紙「ザ・AZABU」や「麻布未来写真館」など、現在ある麻布地区の他のコンテンツも生かすことができ、相乗効果が期待できます。

活動内容の発信により、地域内住民の麻布に対する意識の高まりや、地域外住民の麻布に対する興味関心の高まりが期待でき、地域の活性化が期待できます。

提言3 地域間子ども交流 ～あらたなはっけん あらたなきずな～

事業の目的

他の自治体と交流し互いの魅力や歴史を知る機会を創出するとともに、豊かな自然を体験する機会を設け麻布地区の子どもたちの健全な育成を促すこと

事業の概要

麻布地区の子どもたちが交流自治体の自然・農業・伝統文化等を体験し現地で子どもたちと交流するツアー、交流自治体の子どもたちが麻布地区で特産品販売を行う事業等を実施

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

あっている
実施により麻布地区の子どもの健全な育成促進につながっている

事業の効果はありますか？

参加者からは好評を得ているので効果はある

事業に独自性は見られますか？

他地域でも同様の取組はあるが、交流先の選定に特長があり独自性があると思われる

継続に向けた課題はありますか？

より多くの子どもに参加してもらいたく、募集人数の拡大を課題としたい

継続
改善

提 案

地域間子ども交流

～あらたなはっけん あらたなきずな～

なぜ改善？

より多くの子どもに参加してもらうことで、麻布地区の子どもの健全な育成が促進できると考えられます。

子どもたちにとって地域間のつながりを感じられる交流や、自然体験の機会を得られる内容であることが必要です。

どうする？

参加費の見直し

実施内容の見直し（参加費を上げる、また宿泊日数を減らす等）を提案します。

オンラインの活用

子どもたちのより活発な交流を実現するため、オンラインの活用も可能性として考えられます。

期待できる効果

麻布地区の子どもの健全な育成が促進されます。

麻布地区政策分科会 Bグループ



◎リーダー・サブリーダーによる総括◎

親子でエコっとプロジェクト

佐々木 和志

Bグループ サブリーダー

本事業は、子どもたちに、知る・見る・体験することを通じて、自然環境や生きものを大切にする心を育んでもらう取組です。アークヒルズ仙石山森タワーでの「こげらの庭」に棲む生きものの観察などを専門家のガイドとともに親子で自然体験をすることができます。このような事業は、まさに麻布地区ならではの取組だと考えています。今後もより多くの親子が参加できるように本事業の発展を期待します。

麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～

松本 絢香

Bグループ サブリーダー

麻布地区が再開発により大きく変わりつつある中で、今の景観を写真や動画に収めておくことは有意義な取組です。古い写真の収集に関してはある程度出尽くしたのではという話もありましたが、若い世代や海外の方にも周知することで、新たな写真が出てくる可能性もあります。名所も多い麻布地区の利点を生かした周知の方法を検討していくことも必要だと感じました。デジタルアーカイブの充実にも期待しています。

地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」

吉松 正敏

Bグループ リーダー

高齢になると家にこもりがちで、やる気も起きない。私の親もそうでした。誰にでも訪れる老後をいきいきと過ごすための事業がこの地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」です。プログラムを楽しみに会場に来るお年寄りの姿を見て、事業の効果を感じました。課題は認知度。もっと知ってもらい、多くの高齢者（特に男性）が来場し満足されることを期待します。

提言 4 親子でエコっとプロジェクト

事業の目的

子どもたちに、知る・見る・体験することを通じて、自然環境や生きものを大切にする心を育んでもらうこと

事業の概要

自然環境やリサイクルに関する取組を行う地域のボランティア団体や事業所等と連携し、生きもの観察や自然散策、環境美化、リサイクル等をテーマに、参加する子どもたちが自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

小学生以下を中心に、幅広い対象の親子が参加できるプログラム構成であり、内容と目的はあっている

事業の効果はありますか？

自然やエコ活動に触れる機会等が提供され、子どもが楽しみながらエコ意識の向上につながる事業であることから、効果はあったと言える

事業に独自性は見られますか？

自然と再開発との連携といった都心部ゆえの独自性がある

前回の提言の内容は反映されていますか？

「みんなでエコっとプロジェクト」から「親子でエコっとプロジェクト」に名称変更し、よく反映されている

名称変更で対象が明らかになり、参加者が増え、プログラムが増加した

継続に向けた課題はありますか？

周知が紙中心でインターネットでの発信が弱い

参加者アンケートが事後提出のため回収率が低い（小さい子ども連れもいるため、その場でのアンケート記入は困難）

集客の方法として、ちらしとインターネットのどちらが効果的であったかが見えてこない

倍率が高く、全ての希望者を捕捉できていない

継続
改善

提 案

親子でエコっとプロジェクト

なぜ改善？

環境への影響を考慮する事業でもあることから、周知方法も環境に配慮した方法とすることが必要です。

すでに十分な集客ができているのであれば、大量のちらしに頼らない周知方法への移行が求められます。

どうする？

ちらし配布の廃止

ちらし配布の廃止を検討すべきと考えます。

インターネットを活用した周知

ちらしでの周知の代わりに、小学校のウェブサイトなどを活用した周知を行うことを提案します。

期待できる効果

ちらしの廃止により、費用削減の効果が期待できます。

削減された費用で実施回数の増加や参加者の増加が期待できます。

小学校のウェブサイト、アプリ等を活用することで、区民のデジタル化の促進が期待できます。

提言 5 麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～

事業の目的

麻布地区の歴史やまちの移り変わりを写真により保存・発信し、広く伝えていくことで、地域への共感や愛着を深めてもらうこと

事業の概要

参加者が収集した麻布地区の今昔の写真やまち歩きで撮影した写真をパネルにし、他の地域事業・企業・大学等と連携したパネル展の開催やSNS等を活用した写真の公開

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

目的にあっている

事業の効果はありますか？

将来に備え現在を撮影保存する効果はあるが、展示が施設のロビーや公園のため「共感や愛着を深める」という質的效果は測定できず不明である

事業に独自性は見られますか？

他の自治体でもあり得る事業で、独自性は見られない

前回の提言の内容は反映されていますか？

写真収集面で進展が薄く、あまり反映されていない

継続に向けた課題はありますか？

いかに昔の写真を集められるかが課題

さらなる認知度の向上が課題

成果目標の設定が難しい

常設展示がない



廃止

提 案

麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～



どうする？

事業形態の転換

麻布地区の地域事業としての位置付けを見直し、新たな事業形態を模索することを提案します。例えば、「麻布アーカイブ館」のような常設展示館の整備をめざします。

区民からの助力による写真収集

区民の力により引き続き昔の写真の収集を行うことを提案します。

写真に関する地域イベントの検討

区民が参加できるイベントを開催することを提案します。例えば、「写真家さんといく麻布まち歩き」「参加型フォトコンテスト」「過去パネルの SNS 投稿」などです。

提言 6 地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」

事業の目的

高齢者が住み慣れた地域で孤立せず安心して自分らしく生活できるようにすること、また地域におけるボランティアを養成し地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援すること

事業の概要

麻布地区の高齢者が楽しめるような活動・プログラムの提供や他の地域事業の参加者との交流など、気軽に立ち寄れる地域サロンの運営

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

高齢者が孤立せずに参加し交流できており、目的にあっている

事業の効果はありますか？

多彩な参加しやすいプログラムで効果がある

事業に独自性は見られますか？

高齢者向けの内容で開催回数が多く、独自性もある

前回の提言の内容は反映されていますか？

他の地域事業との連携効果は見られるが、新規参加者の拡大までは至っていない

継続に向けた課題はありますか？

参加者はほぼ固定化し、交流も円滑になり効果が上がっている一方、高齢者が対象であるため、長期的には新たな参加者がないと事業継続が難しい

男性の参加者が少ない

参加者が固定化され、新規参加者が入りづらい側面もある

高齢者が取り組みやすいプログラムであるが、飽きずに参加意欲が湧くよう配慮が求められる

継続
改善

提 案

地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」

なぜ改善？

男性の参加者が少なく、様々な方法による周知が必要です。
参加者ニーズの的確な把握が必要です。
他の地域事業との連携、多世代交流については、メリット・デメリットを踏まえた検討が求められます。

どうする？

様々な周知方法の検討

男性を含む新規参加者の獲得に向けた周知を行うことを提案します。
また、当事者だけでなく高齢者の家族への発信も念頭に、インターネットの活用も検討すべきと考えます。

プログラムの工夫

プログラムはマンネリ化を避け、飽きさせない工夫を行うとともに、参加者のニーズに沿った内容も考慮することを提案します。

他の地域事業との連携強化

プログラムの拡充を続けることを提案します。

多世代交流の見直し

多世代交流は相互の参加者が必ずしも望まない場合もあり、見直しを検討すべきと考えます。

新規参加者へのサポート

新規参加者がなじめるよう、ボランティア等によるサポートは引き続き必要です。

期待できる効果

高齢者の誰もが参加しやすい事業により、高齢者の交流の拡充と活性化が期待できます。

他の地域事業との連携による相乗効果が期待できます。

麻布地区政策分科会 Cグループ



◎リーダー・サブリーダーによる総括◎

みんなでまちをよくする「ミナヨク」

田中 友英

Cグループ サブリーダー

「ミナヨク」は地域サポーターを育成するための取組です。取組のコンセプトは素晴らしいながらも、今後地域活動を支えるサポーターが循環的に生まれてくるような仕組みづくりや、取組の効果を測定し、次の取組に反映する等の改善の余地があると感じております。改善を通じて地域の担い手育成と地域活性化につながることを期待しております。

あざぶ達人ラボ ～次世代へつなぐ麻布の魅力～

錢 瓊毓

Cグループ サブリーダー

様々な提言がなされた直後に新型コロナウイルス感染症の大流行が発生し、地域事業そのものの活動が大幅に制限された2年間でした。しかし、その中でも工夫を凝らし、新しい形式でのあざぶ達人ラボのあり方を模索したことは素晴らしいと思います。一方で、以前からの課題であった運営人数の減少と運営メンバーの高齢化・固定化は改善されておらず、今後の事業運営に大きく影響を与えると推測します。課題解決に向けた積極的な取組を期待します。

提言 7 みんなでまちをよくする「ミナヨク」

事業の目的

地域に愛着を持って地域活動を行う「地域サポーター」として活躍できる「人財」を発掘・育成し、新しい地域のつながりを構築していくこと

事業の概要

地域活動に興味がある麻布地区在住・在勤・在学者等が集まり、地域活性化のためのアイデア創出に向けたワークショップの実施や、修了者が交流し、継続的にコミュニティに関われる仕組みづくり

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

コンパ形式での事業者選定や、他の自治体での取組を参考にした経緯などから、一定程度あったものと推測される

事業の効果はありますか？

目的達成を判断するための効果の測定方法が設定されておらず事業の効果があったかは不明

事業に独自性は見られますか？

サポーターを他の地域から呼んでおり、麻布地区独自の活動ができていたとは言い難い

継続に向けた課題はありますか？

ミナヨクに対する課題認識の発端として、あざぶ達人ラボでの取組課題が背景にある

前回の委託事業者は、他の地域からサポーターを呼び企画を実行そもそも麻布の地域特性が理解されていない可能性がある

サポーター主導のため、ミナヨクメンバーが主導権を持ちイベントを実施できない

地域サポーター育成のための投資対効果が不透明

継続
改善

提 案

みんなでまちをよくする「ミナヨク」

なぜ改善？

麻布の特性をよく知る人による事業の実施が必要です。
 予算に対して効果が適切であったかが不明瞭です。

どうする？

元ミナヨクメンバーによる事業実施

委託事業者が主導して事業を実施するのではなく、ミナヨクの活動は元ミナヨクメンバー（修了生）が、麻布の特性を踏まえた上で事業を主導し実施することを提案します。

また、予算の一部を修了生への活動支援資金に充てることも検討すべきと考えます。

効果測定の実施

予算に対して適切な効果が出ていたのか、一年毎に効果測定を行うことを提案します。

期待できる効果

育成されたメンバーが次世代のリーダーとしてコミュニティをつくっていくことで、本来の目的が達成されます。

また、活動支援があることにより、麻布地区の地域事業としてよりよい形になっていくことが期待できます。

効果測定を実施することで、より効果的な予算の執行が期待できます。

また、測定するための基準を設けることで、本来の目的が明確になります。

提言 8 あざぶ達人ラボ ～次世代へつなぐ麻布の魅力～

事業の目的

麻布地区の区民等が、地区の歴史や文化等の魅力を知り、それを次世代へ語り伝えていくことで、地域への関心や愛着を深めてもらうこと

事業の概要

麻布地区の歴史や文化等の魅力を伝える講演会・公開セミナー・まち歩き・子どもを対象としたイベントを他の地域事業や関係機関等と連携して開催

検証と評価

事業の内容は目的にあっていますか？

あっている
麻布の魅力を次世代へつなぐ内容となっている

事業の効果はありますか？

「あざぶカルタ」の取組など、独自性もある興味深い内容
今後事業を継続したうえで、しかるべき効果測定を行い次につなげられるとよい

事業に独自性は見られますか？

事業そのものは、他の自治体において先行事例があるが、コロナ禍で「あざぶカルタ」の内容を取り入れた「バーチャルまち歩き」という新たな試みは、独自性があった

前回の提言の内容は反映されていますか？

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前回提言の多くをまだ活動に反映できていない

継続に向けた課題はありますか？

「あざぶカルタ」を作成したが、それを活用できていない

運営メンバーの人数が減少傾向にある
また、メンバーのほとんどが70代以上であり、世代交代ができていない

継続
改善

提 案

あざぶ達人ラボ

～次世代へつなぐ麻布の魅力～

なぜ改善？

「あざぶカルタ」というコンテンツをつくった段階で事業活動が停止しているため、カルタの存在の認知度が低く、活用されていません。

運営メンバーの人数が不十分なため、新たな活動に着手できません。

どうする？

「あざぶカルタ」のプロモーション活動の実施

「あざぶカルタ」を使ってもらう場(学童クラブなど)を開拓することを提案します。

麻布の近現代史の提示

若い世代に興味を持ってもらうために、より身近に感じてもらえる歴史を取り上げることを提案します。例えば、80年代～00年代といった比較的最近の年代を切り口に、麻布の歴史をセミナーやまち歩きで取り扱います。

新規メンバー募集方法の工夫

これまでのあざぶ達人ラボにはなかった新たなテーマ(例:人気ドラマのロケ地など)の設定を前提に、まち歩き企画の新メンバーを募集し、新旧メンバーで協力して新しい企画立案に取り組むことを提案します。

期待できる効果

麻布で育った人の多くが「あざぶカルタ」を知ることによって、麻布地区の区民の共通体験が生まれ、地域への愛着が深まります。

若い世代が興味を持つ歴史内容を取り上げることで、より若い世代の参加を期待できます。

新たなまち歩き企画を検討する段階から新規メンバーを募集することで、既存メンバーとは異なる興味や視点を持った人材を取り込むことが期待できます。また、新旧メンバーが協力することにより、あざぶ達人ラボに蓄積された知識をさらに活用できると期待できます。

区民参画組織の改編

(1) 改編の実行

令和6年度より、「区民参画組織 麻布を語る会」を「麻布カウンスル」に変更する。改編により、参画は企画、協働は実行とすみ分ける。

(2) 分科会の設置

麻布カウンスルに2つの分科会を設置する。

- ①地区政策分科会
- ②地区広報分科会

(3) 部会の設置

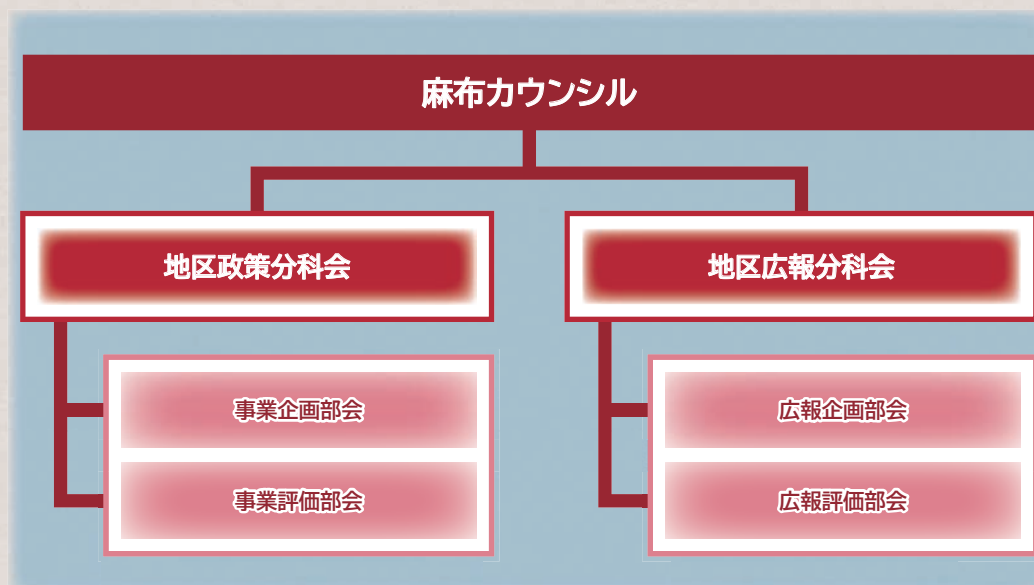
必要に応じ、各分科会に部会やグループを置く。

(4) 募集の方法

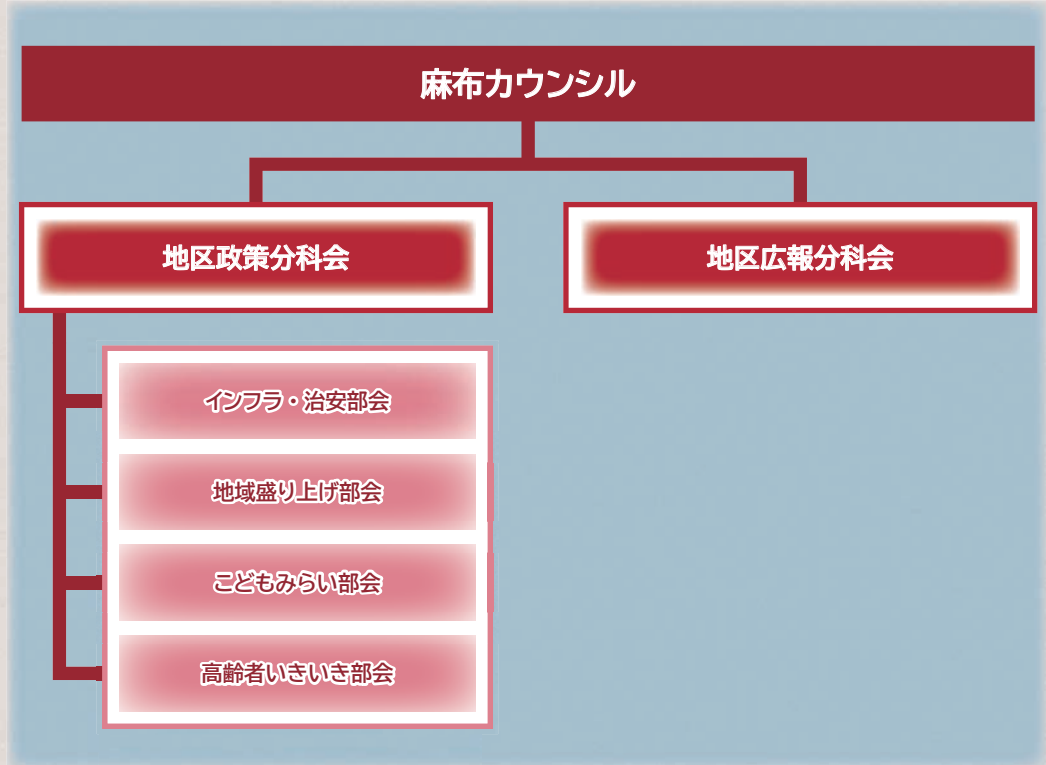
政策や広報の企画立案は専門性を要することから、区民参画や地域事業の経験がある区民を対象に募集する。町会や市民団体の構成員等で、すでに区政と接点のある者は対象外とする。また、麻布地区在住・在勤・在学者に限定し、ITの知識や技能を要件とする。

無作為による新規募集を行う場合は、研修年度を設け、上記の資格や要件に合う委員を育成する。

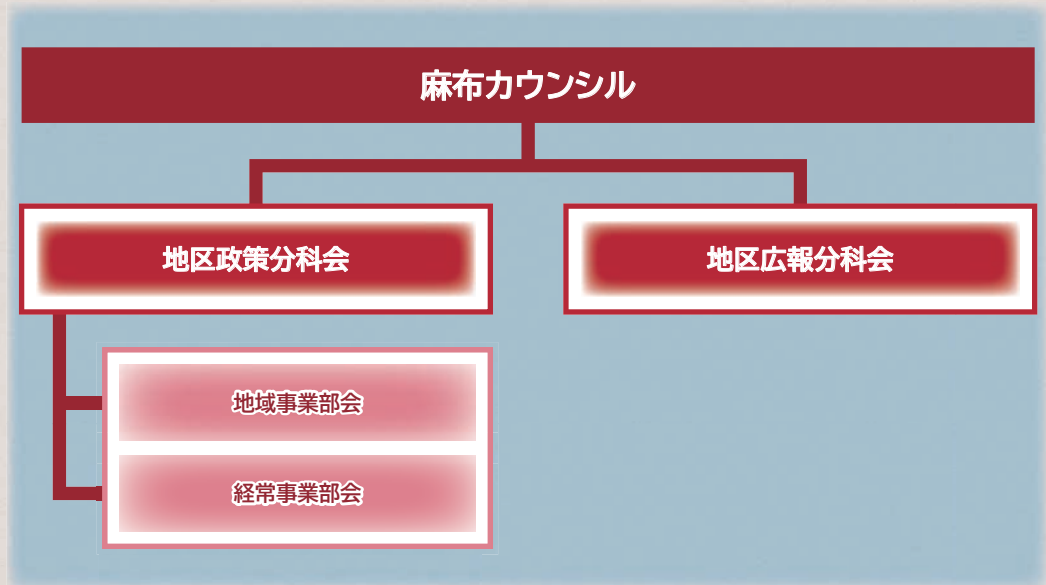
改編例 1 機能別



改編例 2 政策別



改編例 3 事業別



総括

2

予算の柔軟運用

各事業の予算について、当該年度の事業規模や内容に応じ、事業間の融通が可能な仕組みを構築する。



阿部 恒司 Koji ABE Aグループ

10 数年間麻布で過ごすとともに、コロナをきっかけにウォーキングで麻布や六本木エリアをくまなく歩き回り、麻布地区については十分良く存じ上げているつもりでしたが、客観的に見ることは無く、今回の分科会への参加は大変良い機会になりました。

また参加メンバーも、私のような初参加者から分科会の活動に長く携わっておられるベテランの方までおり、またバックグラウンド的にも不動産系、スポーツ系、福祉系、地域おこし系、IT 系、ビジネス系等々とても多様で議論も楽しく勉強にもなりました。

既存の施策に関しもう少し突っ込んで良かったかなという反省もありますが、私の意見が多少なりとも参考にしていただけたとすれば、望外の喜びです。座長、副座長や事務局の方々は準備等にご尽力頂きどうもありがとうございました。



石橋 千恵子 Chieko ISHIBASHI Cグループ

コロナ禍で、地域の繋がりの必要性を感じ、今年度初めてこちらの政策分科会に参加させていただきました。

会議では毎回皆さまの麻布への熱い想いが飛び交い、決められた時間では話しきれないこともしばしばでした。麻布のような都会で、地域活動に対して真摯に向き合う方々に多く出会えたことは、予想外の嬉しい驚きです。

一方で分科会を機に実際の活動にも参加させていただきましたが、運営は麻布外の人たちの手によるところが大きく、私たちが議論している声がほとんど届いていないことを痛感し、とても残念に思いました。

麻布地区内の繋がりが少しずつでも力となって、ストレートに活動に結び付いていく様、できることには引き続き取り組んでいきたいと思っています。



伊藤 光子 Mitsuko ITO Bグループ

麻布に長年住んでいますが、麻布のことを余り知らないの初めて参加しました。地域の色々な取り組みを知り、また実際に「ちょこっと立ち寄りカフェ」などの活動にも参加出来て、貴重な経験でした。仕事を離れたら、やはり自分の住んでいる身近なコミュニティを大切にしなければと改めて思いました。メンバーの皆さまの麻布愛が伝染して、私もますます麻布が好きになりました。



ウィー 万将 Wee WANJIANG Bグループ

麻布で人生の大半を過ごす中、何か地域への貢献ができることが無いかと考えたら、運が良いことに麻布を語る会への案内書が届いた。

初めて麻布を語る会に出席した日は記憶の中に鮮明にある。様々な人が同じ思いで集まるこの会、それらの人々からでる個人のストーリーは麻布へ対する気持ちが溢れるのを感じた。残念ながら全ての方と最後まで一緒できないことがあった。

小グループでの話し合いは、グループの中の人々の考えや手法を身近に見ることで、ベテランから新委員まで様々な意見が飛びあって意見の違いはあれども、活気があることに安心をした。

前回の提言書や話し合いでの結論で出した答えなどがまだ行動になっていないことや、同じ問題を何回も議論することなどまだまだ修正点があるがそれらを解決する動きが見られるのも議論の意義があると感じる。

麻布地区の地域事業などにもっと同年代の人々に興味をもってほしいことを思う。10代が未来の卵と言うように麻布地区にも未来の卵などが居られるような所になることを願う。



鍵谷 芳勝 Yoshikatsu KAGITANI Aグループ

私の麻布地区政策分科会への参加は、ペットロスから始まりました。ペットロスの経験者には判ると思いますが、愛犬ビーの死は、私の精神崩壊と人生の終焉を意味していました。ビーの死のあまりの悲しみに一時は、ボランティア活動を全て辞退しようとも思いましたが、「ビーの思い出残る六本木をより善い街にしなければ」と思い直したところなのです。

今回の政策メンバーは、社会の種種相をお持ちで、しかもネット通が多く新しいネット用語が飛び交い、異次元の議論世界に迷い込んだような感覚に陥りました。(笑)

昔気質でその上、「一言居士」且つ「直言居士」でもある私は、老害多く「百害あって一利無し」かなと落込んだりもしました。(笑)

私達はこの麻布地区が好きです。だからこそ、この地のより善い発展を夢みます。再開発の連続で変わり行く麻布地区の発展には、時代の流れに抗わない逞しさと、無謀な開発に抗う叡智を兼ね添えた政策メンバー、皆さんの若い力が必要です。ただ麻布地区で時代を生き抜いて来た老人達には蓄積された経験と知識があります。老骨に鞭打ち皆さんを縁の下から少しでも支えて行きたいという気持ちにさせて頂いたのも事実です。

世界に誇る国際都市麻布地区を賑いと繁栄且つ居心地のよい住みやすい働きやすいそして学びやすい安心安全な街への持続は、行政・企業・住人、この地で働く人々の重責と一体化が必要です。

欧米を中心に芸術振興に向けて予算を安定的に確保する「公共建築費用のほんの一部を関連する芸術振興に支出する仕組み」が採用されています。

これからの麻布地区は、経済だけの街ではなくアートの街としても更なる発展を遂げる仕組みが必要かも知れません。幸いなことにこの地には、森美術館・国立新美術館・サントリー美術館、世界一美しい響きを持つと云われるサントリーホール、そして多数のライブハウス・音楽スタジオ等があり、芸術の下地は十分にあります。それらを観光等とコラボさせ経済効果を派生させる仕組みも考えてみてはどうでしょう。

それから、麻布地区政策分科会で喫煙者にも非喫煙者にも納得出来る優しい六本木の煙草ルールを議論する機会を設けて頂けないものでしょうか？

私達学生時代は男性八割、女性二割が喫煙者だった記憶がある。仲間達とカフェで煙草をくゆらせ社会問題を熱く語り合うのが至福の時間でもあった。

煙草マナーを守る社会性と道徳観を持ち合わせた愛煙家にとって六本木は魅力の無い街になったと云う方々も居る。勿論、路上での歩き煙草、吸い殻のポイ捨て等は言語道断、以ての外で条例で罰金刑を科す必要もある。ただ規制規制で煙草をくゆらす場所があまりにも少なくなった事も事実だ。

時代の風潮とともに煙草文化の衰退は仕方のない事だが、煙草文化の根絶は善の愛煙家達には辛い悲しいことである。

悪質なルール違反者には徹底した啓発活動を続けて行こう。



加生 美佐保 Misaho KASHO Aグループ

私は前回の“AZABU2020、令和2（2020）年3月”に引き続き参加しました。前回に比べ、メンバーの出席率が良く、活発な意見の交換で各分科会を終え、前回以上の充実感を味わっています。

Aグループの検討課題である、既存の「六本木安全安心プロジェクト」と「地域間子ども交流」（山形県最上郡舟形町との交流）については、経験していることを絡めて述べることができましたが、新規取り組みである「麻布の縁さ〜」については、メンバー全員が雲をつかむような状態で、戸惑いながらも話し合い、おかげで少しは、理解できたと感謝しています。

また今回は前回にはなかった「地域事業イベント情報（予定）」が毎回配布されていたので、イベント参加のきっかけになり助かりました。

私たちの意見が、どのように反映されるのか楽しみです。

みなさん、ありがとうございました。



片岡 佳和 Yoshikazu KATAOKA Aグループ

今回、2度目の参加ですが、今回も、麻布地区をよくしようと考えている多くの仲間と知り合い、議論し、提案でき、その一員に加わったことは大変光栄です。

麻布地区は今後も再開発が進み、これからも発展・変貌していきますが、一方で、住みやすく楽しくワクワクするような街であり続けるよう、皆さまと一緒に今後も貢献していきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



北野 健二 Kenji KITANO Cグループ

区民参画組織「麻布を語る会」メンバーによる2020年提言から丸2年。コロナ禍もあって思うように応えられなかったのではないかと思うものの、その進捗状況は、自律的に進み始めた「あざぶカルタ」以外、「みんなでまちをよくする“ミナヨク”」、「あざぶ達人ラボ」とも我々の提言が届いていないかのようなものだった。いずれも結構な予算が付いている事業だ。会の任期もあって、再び進捗を確認できるのは次の2年後となるが、2年となると、前の2020年にはなかった新しい街が麻布台に出現しつつあるように、2年先の2024年は、麻布支所前でも大規模な再開発事業が始まってもおかしくない頃だ。以前、麻布地区内の再開発事業との関わりについて確認を求めたことがあるが、我々に期待している街づくりとは違う（別扱い）といった説明を受けたことがある。ただ、こうも街自体が変わってしまう再開発となると、我々の関わり方も変えていくべきではないだろうか。頑なに、これまで通りの括り方とする考え方は住民・区民も望んではないのではないだろうか。こう考えての2年後の「麻布を語る会」は、再提言にどう応えていただいたのか現状路線の確認だけでなく、住民・区民として参画する前提で、新たな切り口なり、必要であれば新たな体制での取り組みを期待したい。



小池 純司 Junji KOIKE Aグループ

コロナを機にテレワークが進展し、これまで私にとって「住む街」であった麻布地区が「住み働く街」として、生活のほとんどを過ごす場所となりました。

政策分科会の案内の便りを頂き、思い切って応募させていただきましたが、委員を務めさせていただくことで、これまで以上に街の課題を身近なものとして感じることとなりました。私は、議員でも、職員でも、また地域の諸団体のメンバーでもない公募の委員としては、一住民としての代表性に限界があることを自覚しております。一方で、麻布地区の行政に様々な声の一つとして意見を挙げ、また他の公募委員と議論をして提言をすることは、住民による意見表出のチャンネルを増やすという意味では意義があることを信じて、毎回欠かさず政策分科会に参加させていただくことができました。加えて、政策分科会では、様々な地域活動の案内を毎回頂くことで、私自身も六本木安心安全活動にほぼ毎回、時には子供とともに参加させていただくことができたことも大変意義深く感じております。委員の皆様、関わってくださった職員や関係者の皆様に感謝しつつ、提言書が麻布地区をより住みよい街とする一助となることを願ってやみません。



小勝 陽子 Yoko KOKATSU Aグループ

生まれ育った「ふるさと」に少しでも貢献したいと思い、今回初めて参加しました。今回参加させていただいて感じたことは、この地域には本当に優秀な人材がたくさんいるな！ということ。そして、こうした方々の力を活かせれば、もっと色々と有益な取組みができるだろうなということでした。例えば、今回分科会に参加された方々や各種取組に参加されている方々を各町会とつなげられれば、分科会で取り上げた内容もかなり幅が広がるのではないかと思います。各町会を支援する活動は既にされていると思いますが、逆に区取組に町会をどう活かすか、どう協力してもらえるかという観点から考えることができたことは新たな発見でした。地域には思いのある方がたくさんいます。人と人を繋ぎ、みんなで少しずつ、時間と力を（たまにはお金を）出し合って、もっと素敵な街にできればと思いました。これまで、地域のことをここまで深く考えたことはなかったですが、皆さんとの議論を通して見つめ直すことができ、大変貴重な機会をいただいたと思います。お世話になった分科会の皆様、支所の皆様、本当にありがとうございました。これからも麻布をよろしくお願いいたします！



佐々木 和志 Kazushi SASAKI Bグループ

前回に引き続き、2回連続での参加でした。元々参加してみようと思った理由は、主に2点です。1点目が、自分が住んでいる地区をもっと知りたい。2点目は、行政がどんな思いで地区の施策を実施しているのかを知りたいという純粋な興味。そして、委員を継続した理由のメインになるかもしれませんが、自分たちが提言した内容を受けてどのように地区の政策が変化するのかをもっと見てみたいと感じたからです。

実際に継続して参加すると、初回参加時は右も左もわからないまま提言していた内容に対して、どう変わったのか、どう変わるのかがより具体的に見えてきました。変化が分かることで、分科会の活動もより楽しくなりました。

初回の分科会では0歳だった娘も気づけばもうすぐ6歳を迎える年齢になりますし、新しい家族も増えました。子どもの成長とともに、自分が住む街をより良くなる取組みに引き続き携われればと思っています。



佐藤 雅代 Masayo SATO Cグループ

今回、麻布地区政策分科会の一員として活動させて頂くことにより、地区の将来や現状の問題を、あらためて自身の課題として捉えることができました。有意義な機会を頂戴しありがとうございます。

その中で、以下のような課題も見受けられました。今後の参考となれば幸いです。

1) 十分な時間がない

資料収集や意見集約のための時間は、十分とは言えません。よって、「メンバーは、各自前以って、政策分科会の過去の提言を十分に読みこなし理解しておく必要がある。」これを徹底した上の参加でないと、いつまでも議論の堂々巡りになりかねないと思います。また、事務局担当者から、適宜これまでの経緯等の説明がありますが、各プロジェクトの経緯は予めまとめて一覧できれば、より効率的かと考えます。

2) 関与可能な範囲が不明瞭

政策分科会の事業を掘り下げていく中で、予算や区が契約した事業者などの経費面にも遭遇する場面があり、踏み込んで良いのか判断に躊躇することもありました。

「提言書」という製作物にとどまらず、提言内容を掘り下げ、具体的な活動に展開し、麻布地区の未来に役立てることが必要だと改めて感じました。今後ともコミュニティの一員としての役割を果たしていこうと思います。



銭 瓊毓 Keiiku SEN Cグループ

外国人が多く住む街だけど、外国人の声を拾い上げて反映させる機会が意外に少ないなあ、と思っていたところに政策分科会の委員募集を知り、いそいそと応募をしました。

実際に参加してみると、幅広い年代の、でも共通するのは熱心な方々が集まっていて、どの事業に対しても、当事者目線で意見を出し合うことができ、とても有意義な経験になりました。

何事もそうですが、外で見ているのと中に入ってみるのでは、違いがあります。今回、政策分科会に参加し、自分の住む街に対してもっと興味を持つようになりました。新しい視点を獲得ことができ、参加して本当に良かったと感じています。



田中 友英 Tomohide TANAKA Cグループ

自分の住む地域については、町内会の取り組みくらいしか知らず、行政がどういった意図を持ってどういった取り組みを実施しているかを知る良い機会となりました。合わせて、政策分科会という場を通じて、普段余り接することのない多種多様な委員の方のご意見をお伺いすることも出来、改めて地域の取り組みとして何をすべきかを考える非常に良い機会となりました。

私は主にミナヨクという取り組みに携わらせていただきました。

その中ではいかに地域における次世代リーダーを育成するかについての議論がなされました。

麻布地区という都心の地区においても次世代の地域の担い手を探しているという現状に驚くと共に、改めて地域というのが人によって成り立っているということが実感されましたし、これらの取り組みを通じて地域により一層親近感を抱くことができました。

政策分科会の取り組みに非常にサポート型であった麻布地区総合支所の皆様には感謝の気持ちをお伝えさせていただくと共に、共に協議して下さった委員の皆様にも様々な刺激をいただきました。ありがとうございます。

今後も時間の許す限り、地域活性化の取り組みには協力させていただきたいと改めて思いました。



野田 真一郎 Shinichiro NODA Cグループ

私が麻布地区に引っ越してきたのは2002年暮れでした。子供達も港区で小中高校生活を過ごし、大学は自宅から通っていました。今では成人になり独立しています。

私も麻布地区の住民として20年目となり、何らかのカタチで地元に関与できないかと思っていたタイミングで「区民参画組織 麻布を語る会」から公募の通知を受けました。ちょっとした運命的な出会いかも、と思い早速応募し参加決定となりました。組織の中では、「ミナヨク」と「あぎぶ達人ラボ」を担当する「Cグループ」を希望しました。初めての経験で右も左もわからない状態でしたが、再任されている先輩メンバーの方々のお話や、過去の提言の継続性や改善点、問題点を議論していくうちに私も意見できるようになりました。また、「Cグループ」は対面での会合とは別にLINE上でも活発に意見交換を行っていて、これらによっても提言が完成されたと思います。メンバーの皆様からも地元愛を感じたとともに、人格者ばかり居る組織に参加できて幸せで楽しく議論できました。貴重な経験となりました、ありがとうございます。



松本 絢香 Ayaka MATSUMOTO Bグループ

ポストに投函された区役所からの参加募集で初めて「政策分科会」の活動を知りました。正直なところ子供をもち麻布台に店を構えるまでは地域の事は殆ど知りませんでした。

息子の保育をして頂きながらの参加だったので恐縮しつつも、1年間話し合いに参加させていただき、色々と考える中で行政への関心や麻布地区への愛着がわきました。

子育て世代や若い世代がもっと気軽に地域活動に参加できたら、さらに活発な意見や新しいアイデアが生まれる気がしています。

住民と行政の方々が話し合い試行錯誤しながらより良い「麻布」の未来をつくっていけたら良いなと思っています。



三国 廣子 Hiroko MIKUNI Aグループ

「麻布を語る会」に参加させていただきありがとうございました。

約8カ月の期間、3つの課題とほんの少しですが麻布地区の取り組みに触れることができたことを感謝します。「麻布を語る会」は住民に地区行政への参加意識を高める施策のひとつであると思われ、私はその思惑通りに麻布愛がさらに高まりました。

このままの流れで「地域事業活性化プロジェクト」の目的通りに、卒業生を活用する「麻布の縁さ〜」になっていきますし、「六本木安全安心プロジェクト」では（普段絶対にやらないような）取り組み内容を大声で案内しながら六本木でティッシュ配りも喜々としてやりました。

麻布地区のホームページも毎日チェックするようになりましたし・・・とキリがありません。

他地域では見られない地元民による地元活性の成功事例だと思います。

提言書には「独自性が見られるか」という項目がありますが、「麻布を語る会」は、独自性、抜群に見られます。

行政対象で「地元住民による地元活性コンテスト」があれば優勝できる施策だと思います。

次年度には、取組んだ課題を検証しさらに愛を深めていきたいと思っています。

加えて、たくさんの素晴らしい方々とお知り合いになれたことにも感謝です。

ありがとうございました。



吉野 茂 Shigeru YOSHINO Aグループ

私は、2018年から本分科会に参加させていただいています。

今年度は、次期麻布地区版計画書策定に向けた提言をまとめるという目的のもと集まった委員のみなさんと毎月討議の時間をもちました。

通常、グループで担当する地域事業について区の職員の方から、事業の目的や進捗状況等の説明を受けて議論を重ねますが、今年は多くの委員が声を掛け合いながら各事業に参加したり、見学したりしながら、実際の様子を知ることでより具体的な提案につながるようにと活動する姿が印象的でした。

その結果、会議以外でも委員間の交流機会が増えて、討議も活性化し、一体感が醸成されたと感じています。

今回の提言は、その活動が活かされたものになっていると思います。

また、この分科会に参加して感じるのは、日ごろの生活ではなかなか会うことのないであろう、様々に社会で活躍する委員と麻布の未来を語り合うという経験はとても貴重な時間だということです。

これだけ多くの人が地域に関心を持ち、自ら応募して委員として参加・活動する麻布の未来は明るいと思っています。



吉松 正敏 Masatoshi YOSHIMATSU Bグループ

「麻布を語る会」に参加して7年目になります。コロナ禍での行動制限で約2年間の休眠期間を経て新たな気持ちで活動を再開しました。

対象事業の「親子でエコっとプロジェクト」では、オブザーバーで参加して説明だけでは分からない気付きを得てグループ検討に役立ちました。子ども向けながら大人が見ても興味深い内容でした。また、高齢者向け事業「ちょこっと立ち寄りカフェ」では、私自身が「あぎぶ達人ラボ」のメンバーとしてバーチャル街歩きを話しました。知られざる街の横顔を解説する中で麻布への愛着を深め、微力ながら立ち寄りカフェの活性化につながったことは嬉しく思います。いずれの事業も企画力もコストパフォーマンスも優れ、区民のためになっていると感じました。

麻布はたくさんの情報が埋まった宝の山です。探すほどに新しい発見があります。今後も体力が続く限り関わっていきたい所存です。

フォトギャラリー ～麻布地区政策分科会写真館～



3 麻布地区政策分科会について

目的

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会は、港区麻布地区総合支所が、令和3年度からの港区基本計画・麻布地区版計画書の改定に向け、麻布地区に住み、働き、学ぶ皆さんの声を最大限反映するために設置された分科会です。

委員は、公募により参加する麻布地区の在住者、在勤者で構成されています。

この分科会は、委員一人ひとりが主体となって、麻布地区の将来を、麻布地区総合支所とともに考え、港区基本計画・麻布地区版計画書について相互に意見を交換し、複数回の会議によって合意形成を進め、まとめたご意見を区へ提言することを目的としています。

委員の任期

令和3年4月～令和4年3月（1年間）

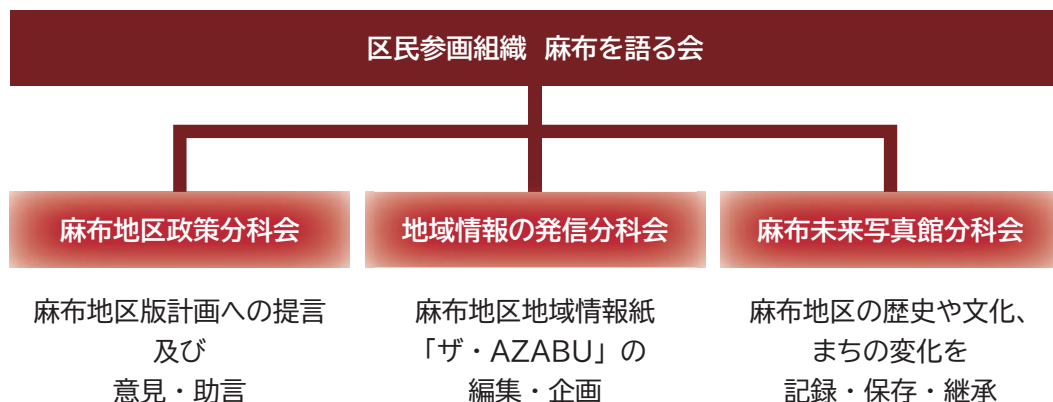
令和4年4月～令和6年3月（2年間）

区民参画組織 麻布を語る会

麻布地区総合支所は、港区基本計画・麻布地区版計画書の策定や事業の執行などの段階で、区民が区政に参加しやすい環境を整え、積極的な区民参画を働きかけています。

「区民参画組織 麻布を語る会」は、公募により参加する区民の方々とともに、地域の課題を一緒に考え、麻布地区の魅力を高め、より住みやすいまちにするために、平成18年7月に設置しました。

現在、「麻布地区政策分科会」「地域情報の発信分科会」「麻布未来写真館分科会」の3つの分科会が活動しています。



令和4年度の活動概要

日 程	内 容
プレ分科会 令和4年4月21日(木)	新規委員紹介 事務局紹介 オリエンテーション 継続委員による体験談 質疑応答
第1回分科会 令和4年5月18日(水)	麻布地区政策分科会について 座長の選出について 副座長の選出について 麻布地区政策分科会グループについて
第2回分科会 令和4年6月10日(金)	グループ討議 討議内容の共有 副座長総括
第3回分科会 令和4年7月6日(水)	地域事業の報告 グループ討議 討議内容の共有 座長総括
第4回分科会 令和4年8月2日(火)	地域事業の報告 グループ討議 討議内容の共有 座長総括
第5回分科会 令和4年9月6日(火)	地域事業の報告 グループ討議 討議内容の共有 副座長総括
第6回分科会 令和4年10月13日(木)	地域事業の報告 グループ討議 討議内容の共有 座長総括
第7回分科会 令和4年11月11日(金)	地域事業の報告 グループ討議 討議内容の共有 副座長総括
第8回分科会 令和4年12月7日(水)	提言書の作成について 地域事業の報告 グループ討議 グループ発表 座長総括
第9回分科会 令和5年1月31日(火)	編集会議の報告 副座長総括
提言式 令和5年3月28日(火)	武井雅昭港区長に提言書を提出

委員名簿

Aグループ

阿部 恒司

鍵谷 芳勝

加生 美佐保

片岡 佳和 サブリーダー

小池 純司

小勝 陽子

三国 廣子 サブリーダー

吉野 茂 リーダー

Bグループ

伊藤 光子

ウィー 万将

佐々木 和志 サブリーダー

松本 絢香 サブリーダー

唯是 一寿 座長

吉松 正敏 リーダー

Cグループ

石橋 千恵子

北野 健二

佐藤 雅代

錢 瓊毓 サブリーダー

田中 友英 サブリーダー

堂園 証美 副座長／リーダー

野田 真一郎

※グループはアルファベット順、グループ内は氏名 50 音順。
※名簿への掲載は、出席率おおむね 6 割以上の委員のみとしています。

各グループが討議した地域事業

分野Ⅰ かがやくまち（街づくり・環境）、分野Ⅱ にぎわうまち（コミュニティ・産業）、分野Ⅲ はぐくむまち（福祉・保健・教育）のそれぞれの地域事業をバランスよく各グループが担当し、討議しました。

Aグループ	六本木安全安心プロジェクト～ルール違反ゼロの六本木へ～ 地域事業活性化プロジェクト 地域間子ども交流～あらたなはっけん あらたなきずな～
Bグループ	親子でエコっとプロジェクト 麻布未来写真館～次世代へつなぐ麻布の記憶～ 地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」
Cグループ	みんなでまちをよくする「ミナヨク」 あざぶ達人ラボ～次世代へつなぐ麻布の魅力～

令和3年度の活動概要

令和4年度の提言書見直しに向けて、麻布地区総合支所が令和2年度に策定した港区基本計画・麻布地区版計画書計上事業の進捗状況の確認や、情報収集を行いました。委員のうち、今年度も引き続き分科会へ参加した約半数の方々は、令和3年度の分科会活動での経験を生かして、令和4年度新規委員の活動をフォローしています。

日 程	内 容
プレ分科会 令和3年4月12日(月)	港区基本計画・麻布地区版計画書について 今後の活動について
第1回分科会 令和3年11月9日(火)	令和3年度のスケジュールについて 地域事業について 委員近況報告
第2回分科会 令和4年3月18日(金) ※書面開催	麻布地区地域事業の進捗 令和4年度麻布地区政策分科会について



どうする 麻布

港区基本計画・麻布地区版計画書改定に向けた提言書

令和5(2023)年3月

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会



麻布

AZABU



区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会

Azabu Council “Azabu wo Kataru-Kai” Azabu Regional Policy Advisory Committee

麻布研究会 麻布地区政策小组委员会

아자부를 말하는 모임 아자부지구 정책 분과회